

特定非営利活動法人
モノづくり応援隊in大田区

活動の記録
NPO 設立記念号
(2008年1月～12月)

NPOとして新たなスタートをしました

**モノづくり企業経営者と悩みを共有し
一緒に、現場に即した課題の解決を
図っていきます**

新たな活動をご一読ください！

モノづくり応援隊in大田区 NPO誕生

理事長挨拶

私たちは、大田区のものづくり企業を応援していくことを目的に集まったNPO法人です。大田区は中小企業の町工場からなるものづくりの街として全国にその名が知られていますが、今衰亡の危機に直面しています。町工場の復権のために、行政とも連携し、現場・現物・現実の三つの現の視点から打開策を提案し、企業と共に行動できる点にNPOとしての存在意義があります。幸いにNPOには、さまざまな業界・分野において豊富な経験と技術、人脈をもったメンバーが集まっています。私たちと町工場とのコラボレーションが新たな価値の創造を生み出し、その積み重ねによって大田区全体の町工場の発展につながっていくことを目指して活動を行なっています。



田中 宏和 理事長

設立趣旨

これからの時代を生きていく中小企業は、経営環境の変化に対応した不断の経営革新を行い、経営環境を自らの敗因のせいにならずに、自立し市場での存在価値を高めていく必要があります。しかし大企業と異なり多くの経営資源を持たない中小企業の1社だけの努力は限られており、複数の企業間、有識者、行政や金融機関、さらには地域社会との連携が必要です。

私達はこの実現のため、地域の企業経営者が中心となりこれらを支援する多くの人達や機関の連携を行い、様々な企画をコーディネートしながら、地域社会の振興に貢献することを目的としてNPO法人の設立を行いました。

活動理念

「大田区モノづくり企業及び関係者との信頼に基づく連携により互いの発展に貢献する」



活動の経緯

「モノづくり応援隊in大田区」は2008年6月に特定非営利活動法人として、法人としての新たな活動を開始いたしました。

これより前、2005年よりITコーディネータが始めた任意団体としての「モノづくり応援隊in大田区」は、経営者研修会、ワークショップ、セミナーなどを行いながら、多くの企業のご支援をさせて頂きました。

その内容は経営課題の整理に始まり、経営戦略策定、販路開拓、新製品開発、新規事業開発、IT活用など多方面にわたりますが、その基本は経営革新による経営基盤の強化となるものです。

しかし、個々の企業の支援を行ってまいりますと、共通する課題や1社のみでは対応できない地域社会全体に関わる大きな課題なども明らかになって参りました。また、ITコーディネータに対する企業側からの期待も、従来のような支援のみではなく、現場に即した課題解決へのコーディネータとしての役割が大きいことも明らかになって参りました。

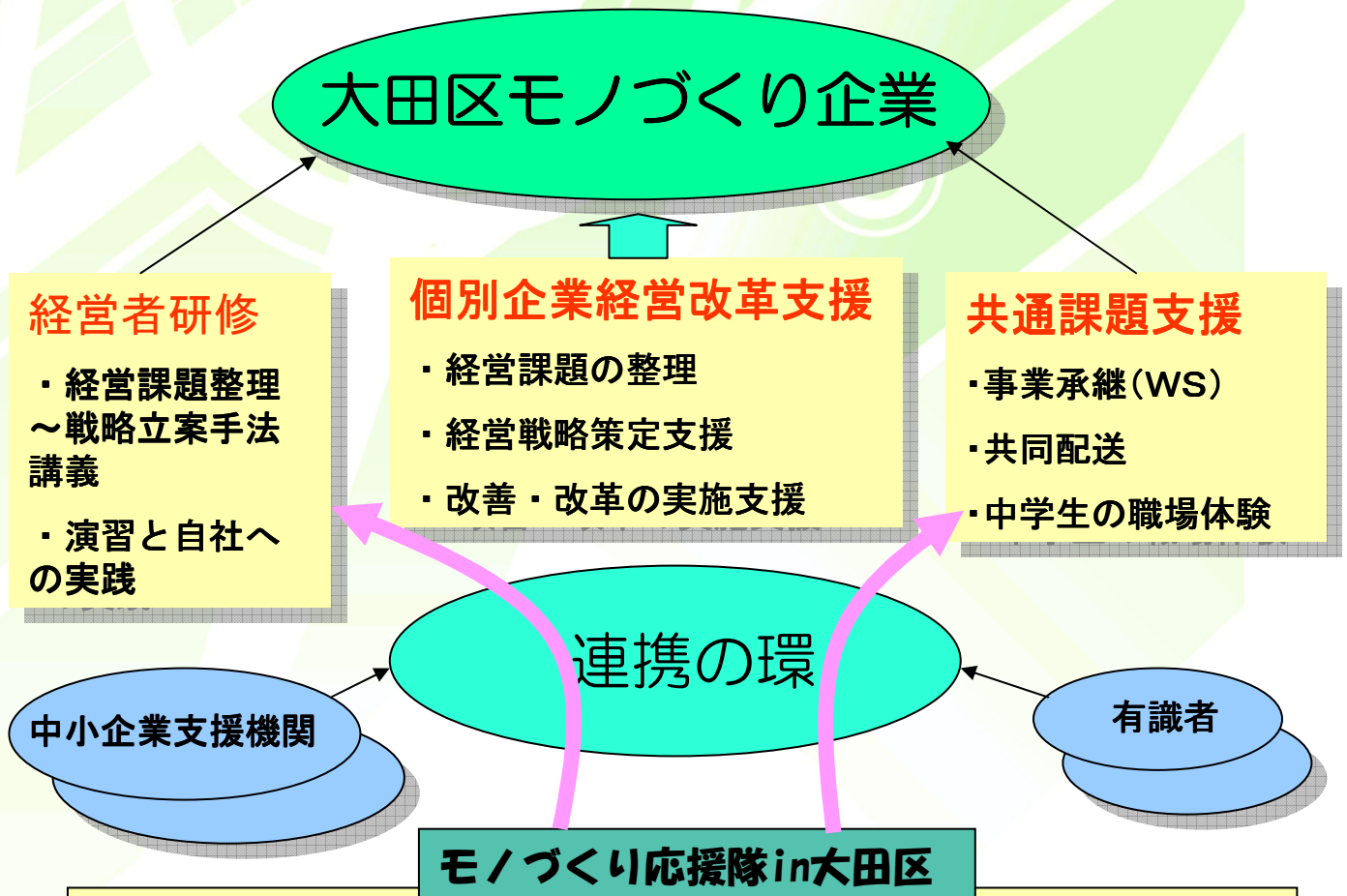
そのため任意団体「モノづくり応援隊in大田区」を発展解消し、地域の企業経営者が運営の中心となり、コーディネータが事務局機能を分担する組織に置き換えることと致しました。

新「モノづくり応援隊in大田区」は従来の活動に加え、企業ニーズに沿った多くの課題解決に取り組んでいきます。そのため、様々な方々との連携を益々強化してまいります。

モノづくり応援隊in大田区 活動概要

ビジョン:

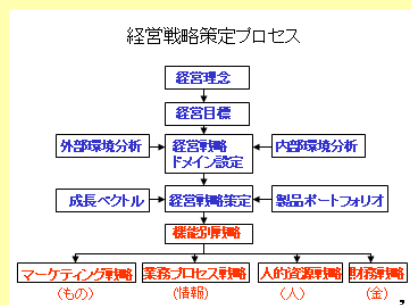
「経営環境の変化に対応した経営革新へのご支援」
「モノづくり企業経営者と悩みを共有し、経営者と一緒に現場に即した問題の解決を図っていく」



特徴

1. 中小企業向け経営戦略策定手法

- ・ 構成が簡明(小規模向け)
- ・ 習得しやすい(自社で推進)
- ・ 浅く～深く(継続により、充実)



2. 連携が盛ん

- ・ ビジョンが明確(役割分担明確)
- ・ 標準化したツールを持っている
- ・ フットワークが良い
- ・ 島根県との連携(経営支援、他)等

3. ネットワークを持っている

- ・ 広範囲の業務経験者で構成

4. 中小企業に通じたベテラン

- ・ 社員教育
- ・ 生産技術・・・等多分野

モノづくり応援隊in大田区 理事経営者の声

大洋機械（株） 社長 猪狩理事

任意団体の時から一緒に活動して参りましたが、NPO法人となつてから活動が本格化しているのを実感しています

しかし企業の現場のニーズとは未だ十分なマッチングが行われておらず、理事を含め、企業の会員が後押しして地域貢献が実感できる組織に育てて行きたいと思います



（有）安久工機 取締役 田中理事

コーディネータによる事務局がしっかりしているので、しっかりとした活動が出来始めたように感じます。これを足掛かりにこれから「モノづくり応援隊」の名に恥じないように何でも受けられる組織にして行きたいと思います

そのため理事としても会員を集め、連携組織ともつながりをつくり、長期の目で地域貢献が出来ればと思っています

（株）大森精工 社長 池田理事

未だ始まったばかりで何をやっている組織なのか、特色を明確に出せていません

「モノづくり」としての実績が出てくるのはこれからになると思います。そのためには企業経営者達がもっと活動に関与し、現場に即した活動が必要だと思います

知名度を上げ、多くの企業にお役に立てられるよう理事自ら広報活動に加わるようにしたいと思います。



フィーサ（株） 社長 斎藤理事



設立趣旨にあるように大田区の中小企業を知るコーディネート役の事務局が機能し始めたので、初年度から予想以上の成果が出ていますしかし大田区の他の企業には未だ何をしてくれる組織なのかが伝わっていませんので、分かりやすく知らせる必要があると思います

社内の身近な問題でも支援してもらいたいことは多々ありますので、気軽に相談し、対応するような組織にして行きたいと思います

（有）松浦製作所 社長 松浦理事

今始まったばかりの組織ではありますが、当初予想以上の実績が出ているように思います。このことは我々の活動に期待し、賛同してくれている人が多いことと実感しています

未だ地域での知名度も低く、これから認めて頂く必要がありますが、多くの課題が山積しており、これを少しずつでも実現することが、この法人の役割ですそのためには多くの方々との連携が必要で、理事として働きかけて行きたいと思います



モノづくり応援隊in大田区 企業支援の紹介

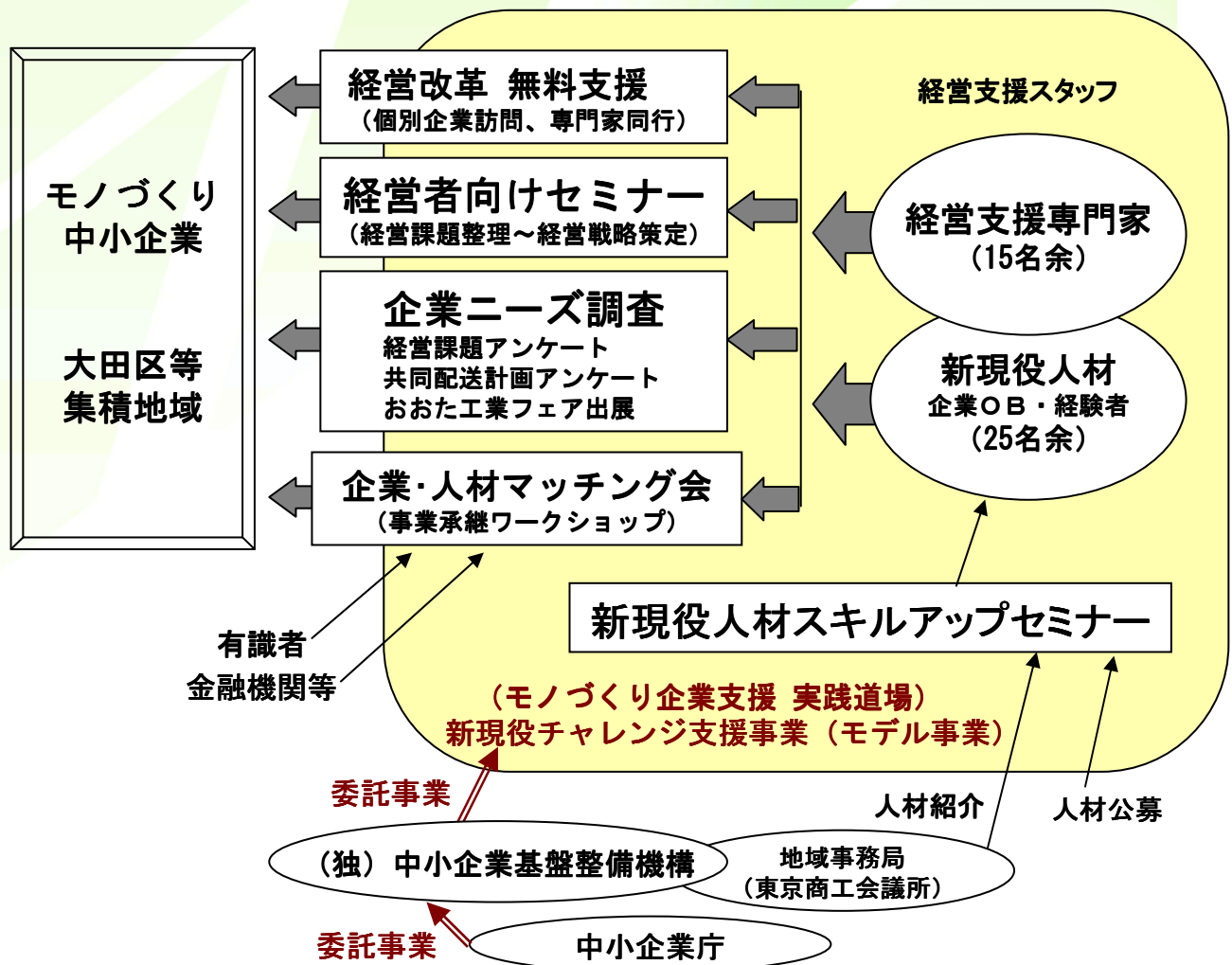
NPO発足後、2008年9月、国（中小企業庁）の委託事業のモデル事業に採択され 全国26機関の一つとして、中小企業の経営支援を本格化しました

NPO内部の経営支援専門家10名余りを中心に、関係協力者数名のほか、新現役人材や公募人材25名を加え、総勢約40名による、チーム活動を展開

- ・モノづくり企業 経営改革 無料支援（個別企業訪問、専門家同行） 約20社をご支援
- ・経営者向けセミナー（経営課題整理～経営戦略策定）2008年11月から全4回コースを開催 約20名の企業経営者が参加。
- ・企業ニーズ調査 ダイレクトメール 約500社へ送付（大田区ほか）
NPO発足のご挨拶のほか、経営セミナー案内、経営課題アンケート、地域内共同配送計画のアンケート、無料支援のご案内などおた工業フェア（2009年2月19-21日 大田区産業プラザ）にブース出展予定、経営支援の事例紹介、アンケート調査、支援相談など
- ・企業、人材マッチング会（事業承継ワークショップ）開催 2009年1月25日 大田区産業プラザ
- ・新現役人材スキルアップセミナー2008年10月より全3回開催。大田区企業の実態、経営者コミュニケーションスキル、経営支援スキルなど

経営支援専門家スタッフ、新参加の新現役人材、外部有識者等の連携による
モノづくり中小企業の経営支援活動

特定非営利活動法人 モノづくり応援隊in大田区



モノづくり応援隊in大田区 経営者研修事業

研修の事例

平成20年度 IT経営応援隊 「経営者研修会事業」の公募に採択され、請負契約を締結して「モノづくり企業 経営改革 実践研修」を実施しました

研修の目的

経営戦略の重要性を理解して、継続的に自社の経営戦略を維持していけるようにする

研修の達成レベル

経営戦略をどのような手順で策定していくかを理解して、自社の経営戦略を策定する

開催日：平成20年9月4日(木)～10月30日(木)全5回(18:30～21:30)

会場：大田区産業プラザ(PiO)会議室

「モノづくり企業 経営改革 実践研修」のカリキュラム

	日時	18:30～19:15	19:15～20:00	20:00～20:45	20:45～21:30	宿題
第1回	9月4日 木曜日	研修内容説明自己紹介	経営課題整理の講義	グループ検討会	グループ発表会	自社の経営課題整理
第2回	9月18日 木曜日	宿題の発表	経営戦略策定の講義	グループ検討会	グループ発表会	自社の経営戦略策定
第3回	10月2日 木曜日	宿題の発表	機能別戦略策定の講義	グループ検討会	グループ発表会	自社の機能別戦略策定
第4回	10月16日 木曜日	宿題の発表	IT戦略策定の講義	グループ検討会	グループ発表会	自社のIT戦略策定
第5回	10月30日 木曜日	発表会：参加全社の経営課題～IT戦略			意見交換会 アンケート	今後の自社計画

研修会の実績

参加企業数：19社、参加者数：24名

研修後のアンケート

- ・問題点・解決方を論理的に整理、展開できそう
- ・明確な手法であると思われるし、情報を社内で共有できそう
- ・毎回実践形式でグループ検討できたので良かった
- ・他社の意見が参考になった
- ・今迄こういったアプローチで経営課題の整理をしてこなかったのだからこれから使っていきたい
- ・当社では過去にこのような取り組みをしていないためトライする知識がついた
- ・普段、漠然とした考えで持っていた問題点を整理できた



経営者研修

モノづくり応援隊in大田区 支援活動

支援活動の事例

平成20年度新現役チャレンジ支援事業(モデル事業)の公募に採択され、国の委託事業として、経営者向けセミナー、新現役人材スキルアップ研修会、企業ニーズ調査、企業人材マッチング、専門家同行の企業支援実践の5つの活動を実施しました

1. 経営者向けセミナー

経営者研修事業の一環として「経営者向けセミナー」を実施しました

開催日：平成20年11月20日（木）～平成21年1月15日（木）全4回（18:30～21:30）

会場：大田区産業プラザ（P i O）会議室

参加企業数：12社、参加者数：19名

2. 新現役人材スキルアップ研修会

研修会対象者：新現役メンバー27名

第1回開催：平成20年10月26日

大田区製造業の実態

第2回開催：平成20年11月16日

経営戦略策定研修

第3回開催：平成20年12月19日

コミュニケーション研修



新現役スキルアップセミナー

3. 企業ニーズ調査

新現役メンバーが大田区企業を訪問して企業ニーズのアンケート調査を実施

- ・経営課題アンケート、経営改革無料支援アンケート
- ・経営者向けセミナーアンケート、地域内共同配送アンケート

4. 企業・人材マッチング

ワークショップ開催

開催：平成21年1月25日事業継続を考える

企業経営者、有識者が一堂に会し問題と解決策を本音で語り合いました

5. 専門家同行の企業支援実践



経営改革無料支援を申込頂いた企業様を訪問して2時間、5回の経営改革無料支援を実施

支援モデルフロー

- 1回目 経営課題ヒヤリング
- 2回目 経営課題分析・対応策
- 3回目 経営戦略策定の進め方
- 4回目 全社経営戦略の策定
- 5回目 機能別戦略の策定

経営改革支援

モノづくり応援隊in大田区 大田区共通課題への取り組み

第2回事業継続を考える ワークショップによる気づき

ワークショップ開催の動機

米国のバブル崩壊により、世界中経済の混乱に巻き込まれています。大田区のモノづくり企業にとっても受注量の減少をはじめとした、困難な時期を向かえています。任意団体「モノづくり応援隊in大田区」の時にも事業継続を考える同じテーマのワークショップを2006年に開催いたしましたが、その時と状況が大きく変化しています

今回は既に廃業を考えている企業や取引先が廃業されると困る企業、事業の後継者が不在で自然消滅せざるを得ない企業などが一同に会し、どうしたら事業の継続が出来るかを本音で語り合う会としました。経営者ばかりでなくそのような問題に日頃係わっている実務家も参加して、参加者が一つでもこれからのヒントを得ることを目的に開催しました

事業継続と地域振興

事業の継続は通常自社のことしか考えが及びませんが、今回のワークショップでは1社の廃業が他社の事業継続に打撃を与えることにも考える必要のあることにも気づきを得ました

モノづくりの事業継続は地域全体の問題としても取り組む必要があります

その為にも金融機関をはじめ多くの協力や制度の改革も必要です



ワークショップ風景

ワークショップの狙い

ワークショップとは講演会やパネルディスカッションなどの聴衆と話し手が分かれているような会ではありません

参加者全員が主役で、参加者が自ら話題の中に参加し、自分の意見を言い、他人の意見を聞く中で互いに学びあい、結果として自分の新たな考えを創造する場です

従って誰か偉い先生が良いことを教えてくれるといった甘い考えでは何も得られません

最初から決まった答えもありません、自ら積極的に発言した人が得るものが多く、会が終わった時には参加者それぞれが気付いたものは異なるものです

日頃日常の仕事に追われて考える余裕の無い経営者の方々にこれからもこのような場を提供して行きたいと思います



グループ討議

参加者の声

今までのご参加者から次ぎのような声が寄せられています

1. 一聴衆でいれば良いセミナーと違い、話をしながら改めて自ら考えるところがあった
2. 他の人の意見を聞いていると、今まで考えていなかった新たな気づきがあった
3. 迷いのあった自分の考えに確信が持てるようになり、自信が付いた
4. 他の人も自分と同じ悩みを持っていることが分かった
5. このような機会から、世界の違う新しい人脈が出来た

モノづくり応援隊in大田区 大田区共通課題への取り組み

地域共同配送への取り組み

発想のきっかけ

NPO法人「モノづくり応援隊in大田区」
中小企業役員の理事が、取引先理事の工場へ部
品や材料を持ち込み、完成品を受け取りに行っ
ていたのが、発想のきっかけであった

協同配送の構想

工場の役員が運送係を兼ねるのは非効率的で
あり、経営や拡販に専念できる環境を整備する
ことを目的とし、大田区内の共同配送事業の構
想を発案した



発想のきっかけ



構想の検討会

大田区内配送の現状

中規模製造業は、ほとんどが配送を業者にお願
いしており、特に量産品の製造や大型部品製造企
業はほとんどが自社で配送車両を持っている

小規模製造業は、個別生産が主体で専用の配送
車両を持っていない場合が多いため、緊急の場合
や自社で持っていけない場合は、宅配便等を使う
が製品の単価に比べて輸送費の比率が増えて利益
が減少することが悩みの種となっている

大田区内小規模製造業間共同配送事業

新規性

大田区内は、中小企業製造業の集積地で企業間
の横連携が確立しているが、共同配送事業は存在
しない

運送業者の機能を活用して、大田区区内の配送
事業を低価格でおこなうことを特徴としている

競合性

過去に大田区内の共同配送が計画されたが、コ
ストの面で成功していない

市場性

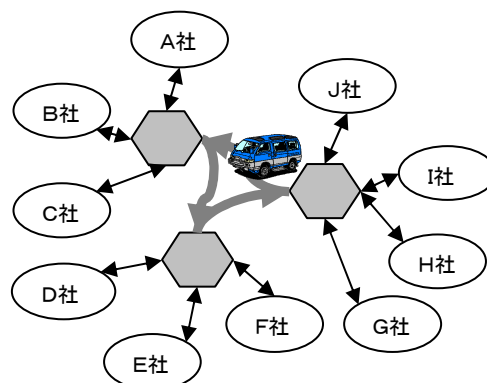
平成17年度の大田区工業統計では、工場総数は
4778、従業員19人以下の工場が4,412（92%）
で、当事業の顧客となる可能性がある

成長性

大田区内の製造業以外の業種への拡大が可能で
ある



アンケート調査の検討会



共同配送のイメージ

モノづくり応援隊in大田区 大田区共通課題への取り組み

中学生の職場体験

キャリア教育の現状

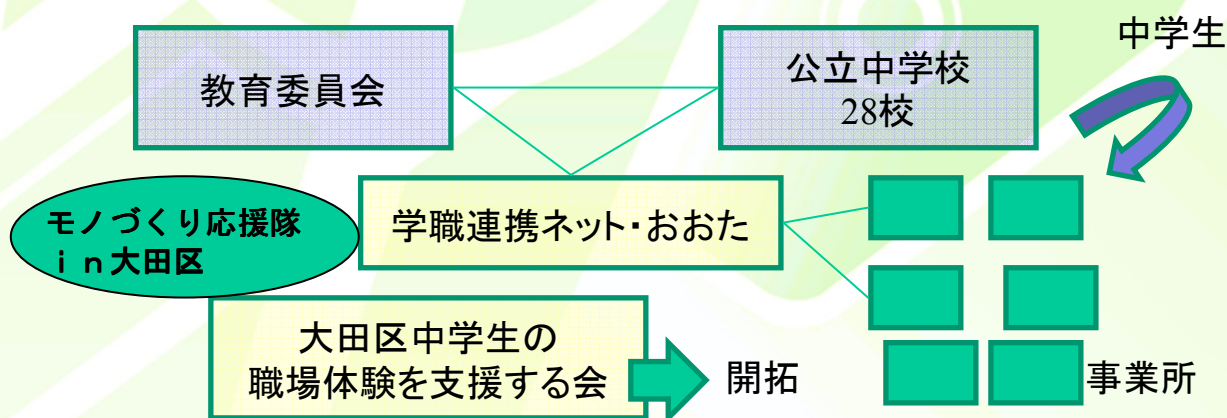
文部科学省の施策として、現在、全国の多くの中学校において総合学習の時間を利用して体験型のキャリア教育が行われています。キャリア教育のねらいは職業観、勤労観の育成にあります。大田区でも区内の中学生約3,500人が毎年、近隣の商店街や町工場、公共施設等で数日間の職場体験を行っています。

ものづくり応援隊が中学生の職場体験を支援していきたい理由は、次の2点です。

①長期的視野に立ち、中学生職場体験を区内のものづくり産業の人材育成へとつなげることができること。

②区内の町工場が地域で果たす役割・意義を、中学生を通じて広く地域社会にアピールすることができること。

活動組織



大田区では、中学生の職場体験を推進していく組織が2つあり、そのひとつが「学職連携ネット・おおた」（代表：御園中学校・大塚洋校長）です。この組織は、中学生のキャリア教育を実践していく研究組織で中学校の教員、事業所の経営者などさまざまメンバーで構成されています。もうひとつが、「中学生職場体験を支援する会」（代表：本NPO会長）です。こちらは中学生を受け入れる事業所の立場から職場体験の意義を広く区内にPRしていく啓発組織です。

ものづくり応援隊では、ふたつの組織に参加し共に活動を行なっています。

課題と対策

生徒を受入れる事業所が圧倒的に不足していることです。とくに、事故やケガと隣り合わせになるリスクや経営者が多忙なため生徒の面倒を見る時間がとれないことなどから受入れ可能な町工場が不足していることです。町工場の存在は大田区の最大の特長のひとつであるにもかかわらず、大田区で育った生徒たちが町工場に接する機会がなく卒業してしまうこととなります。町工場の経営者や職人がものづくりに込めた思い、コツコツ努力することの大切さを次世代に伝承していくためにも、町工場での体験学習に多くの町工場が協力してくれるような啓発活動が求められています。



モノづくり応援隊in大田区 大田区外との連携活動

島根県との連携活動事例

2007年12月島根県のちゅうごく I T 経営応援隊事業へセミナー講師を派遣したが、そのセミナーで島根県の中小企業3社から経営支援の要請があり、2008年1月～2月にかけてちゅうごく I T 経営応援隊事業の個別企業支援を行った

その後、11月に島根県・しまね産業振興財団主催のセミナーが大田区産業プラザ（P i o）で開催され、講師を派遣した

島根県中小企業経営支援事例

1. 板金加工鉄工所
資本金：500万円、
従業員：20名
支援内容：経営戦略の策定、
業務プロセス戦略、
I T 戦略（生産管理システム）
2. 機械加工製作所
資本金：300万円、
従業員：11名
支援内容：経営戦略の策定、
マーケティング戦略の策定、
業務プロセス戦略の策定、
I T 戦略（生産管理システム）
財務戦略の策定（財務分析）
3. 木工所工房（木工所6社の企業で構成）
支援内容：経営戦略の策定、
マーケティング戦略の策定
（マーケティング戦略マップ）
I T 戦略の策定（W e b 販売HP）



タレパン・レーザー加工機



古代屏風出雲（ヒバ）ミニサイズ

島根県・しまね産業振興財団主催のセミナーへ講師を派遣

セミナーテーマ：「ものづくり受注力向上セミナー第1回」 開催日：平成20年11月4日



対象：島根県の中小企業経営者
会場：大田区産業プラザ（P i o）
主催：島根県・しまね産業振興財団
後援：（協）島根県鐵工会
出席者：企業経営者11名、
企業支援者10名
演題：「二代目若社長の経営戦略」
講師：田中 憲之（NPO会員）
「I T 技術・W e b 活用による受注力
向上」
講師：田中 務（NPO理事）

モノづくり応援隊in大田区 経営者の声

広沢電機工業 株式会社

代表者 : 景山 治
所在地 : 本社・工場 東京都大田区西糀谷 2-13-14
大阪営業所 大阪市西区靱本町 3-1-27
資本金 : 7千7百万円
社員数 : 67名
創業 : 1957年1月8日
事業内容 :

- ・動力制御盤の設計・製造・販売・修理
- ・自動制御盤の設計・製造・販売・修理
- ・中央監視盤の設計・製造・販売・修理
- ・コントロールセンターの設計・製造・販売・修理
- ・分電盤設計・製造・販売・修理
- ・その他盤一般の設計・製造・販売・修理



景山 治 社長

経営者研修への参加動機

- ・現在中期計画を策定中で、策定の参考になればと思って参加しました



天野 隆 専務

幹部教育の狙い

- ・経営者研修に参加してみて、経営戦略を具体的に判り易く説明頂いて、何をすればよいか順番がわかりました
- ・経営戦略を立てることで会社の進む方向性がわかり、各部門の管理職もその方向性が理解できると感じた
- ・そこで管理者教育の一環として、当経営者セミナーに管理職を加えて、各部門の戦略を立案できるように考えた



中央監視盤

経営者研修への評価 (参加した4名の管理職)

- ・改めて経営幹部の意思の確認ができて、己の行動方向が定まった
- ・自社でSWOT, PPMは行っていたが、今回その後にあたる「経営戦略の策定」などを教えていただいて次ステップに進むことができた。
- ・経営戦略は経営者ではないので、宿題が難しかった
- ・管理者向けの部門戦略策定セミナーを考えてほしい

モノづくり応援隊in大田区の活動についての要望

- ・中堅・幹部社員を対象とした経営戦略策定における「分析力」養う講座などあれば参加したいです
- ①売り上げを伸ばす為のマーケティング手法、
 - ②経営分析を行う為の財務知識など



営業部
左から
山口、
河崎



設計部
折居



技術サービス部
河田

モノづくり応援隊in大田区 経営者の声

アーツキル ARTSKILL

代表者：長島 照雄

所在地：東京都大田区蒲田 3-24-3

設立：2004年7月12日

ホームページ：<http://www.artskill.org/>

事業内容

- ・3次元CAD/CAMアルミ切削加工・試作品制作
自動車部品、レーシング車部品、光学機器部品、
航空機部品、

- ・光造形

事業の特長

- ・アーツキルは、マシニングセンターによる試作、
アルミ切削加工、2次元精密切削加工、
3次元曲面形状加工を行っています



長島 照雄 社長



自動車部品



航空機部品

個別経営支援の内容

- ・(財)大田区産業振興協会ビジネスサポートサービス制度を利用して支援を実施
- ・新規顧客の開拓と売上高向上を目指した支援依頼であった
- ・経営課題の抽出と解決策の検討から始めて以下の手順で支援を実行
- ・経営戦略の策定
- ・マーケティング戦略の策定
- ・IT戦略の策定 (Web販売HP)

個別経営支援の評価

- ・経営戦略を策定することで、自分で気づけなかったことに気づき、自分の考えで戦略を作れた事が良かった
- ・利用者の立場に沿ったHPに更新して効果があった
- ・HPへのアクセスが増えて、見積依頼も来るようになった
- ・まだ受注まで進んだ案件は無いが今後が楽しみである



光学機器部品

経営者研修に参加して

- ・大田区の異業種の経営者との出会いがあった
- ・業種が異なっても自社に应用できるものがあった
- ・初対面の人とのディスカッションが新鮮であった

経営者研修への評価

- ・自分で経営戦略を策定できるようになりたいので、次の研修があれば是非参加したい

「モノづくり応援隊in大田区」に望むこと

- ・大田区企業の連携組織を作してほしい



レーシング車部品

モノづくり応援隊in大田区 経営者の声

株式会社 ジェイ エム エス

代表取締役社長：山本 博忠

所在地：東京都品川区西大井6-5-1

資本金：20,000,000円

社員数：16名

設立：1976年7月1日

事業内容

- ・工業用計測機器及び環境計測器の輸入、製造販売
- ・プラント腐蝕対策機器の輸入、製造販売
- ・ホームページ：<http://jmsystem.co.jp>



社長 山本 博忠

モットー 『Make Japan Beautiful』

『環境計測』をキーワードに、日本の環境計測のパイオニアとして、計測機器の輸入を手始めに、国内製造を手がけ国内外の環境対策に貢献してきました。最近では環境計測の延長として省エネ、プラント腐蝕対策機器などに業務を拡大してきています。2003年にISO9001:2000を取得しました

創業以来社内には営業、開発、設計、検査、貿易部門のみを保有し、製造を外注するファブレス経営を続けています

経営者研修に参加して



第1回は誘われるままに出席しました。従来行ってきた経営手法は理論立った裏づけが無く社長一人の経験と納得で行ってきたが、大変有用な講義であったため、第2回目からは社員2名ともども3名で参加させてもらいました

課題解決への抱負

今回参加した2名の社員を中心として従来から行っている社員研修に応用し現在、また今後起こりうる課題に社員の納得の基に結束して対応して行きたい。

モノづくり応援隊 in 大田区への期待

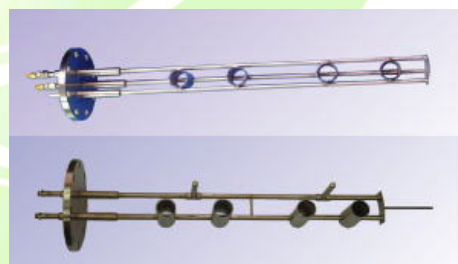
大田区内の有力製造会社と当社とのコラボレーションの架け橋の役割を期待したい

経営者研修への評価

今後対応すべき案件の可視化が出来て問題点が分かりやすく社員と共有できたこと、参加した社員のモチベーションが上がったこと。

モノづくり応援隊 in 大田区の担当者より

会社経営の明確なポリシーを既にお持ちで社内に展開されていますが、今後の会社経営を考慮され、社員の皆様の育成も含めてご一緒に創りあげていかれるお考えです



煙道排ガス流量計



毒性、腐食性
ガスモニター



腐食性ガス・臭気ガス
除去装置

モノづくり応援隊in大田区 経営者の声

株式会社 フルハートジャパン グループ会社 株式会社 ハーベストジャパン

代表者：國廣 紀彦

所在地：フルハートジャパン 東京都大田区中央3-20-8

ハーベストジャパン 茨城県小美玉市西郷地1758

資本金：10,000,000円

社員数：105名（グループ会社含む）

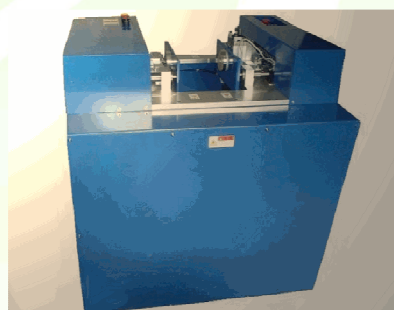
創業：1968年11月

事業内容：

- ・電子機器、制御システムの設計製造
- ・計測、自動制御システムのソフトウェア開発
- ・各種プリント基板実装
- ・ステンレス、アルミ精密板金加工
- ・ステッピングモーター製作
- ・メカトロ装置の設計、製造

参加動機

経営戦略策定研修には、これから事業承継を考える中でその準備とスムーズにスタートが切れるようにと考え参加させて頂いた次第です



古本研磨用 三面自動研磨

自社の経営改革について

今までの経営は、計画などは策定せず、目の前に連続して立ちはだかる問題を解消する経営であった

今後は様々なことを想定して計画を立案し、その計画に向かって会社全体がベクトルを合わせて前進することを理想と考えております

幹部教育の狙い

経営戦略の策定を行う上で、中堅社員から幹部社員までを取り込んで行うことにより、最終的に決定した計画を本気で取り組むことが可能であると共に、策定段階でも様々な事を考えることで社員の啓蒙が可能である

中小企業支援制度の活用についてどのようにお考えですか

- ・新現役チャレンジ支援事業の活用
以前より当社は社員教育を検討しており、この支援事業により様々な経験をされた先生方から教育を受ける事で経験の少ない我々が知識を得られるという事に感謝しております
- ・その他の支援策
社内外共にIT化が謳われる中で社外の意見を取り入れて検討していくことが本当に良いIT化を図れる為、御支援頂きたい

モノづくり応援隊in大田区の活動について

大田区のモノづくり企業に対して今後ともあらゆる視点から御支援頂きたい



國廣 愛彦 常務



計測機用
アイソレーションアンプ 3種



薬品監視保管システム

**特定非営利活動法人
モノづくり応援隊in大田区**

<http://mono-ouentai.org>

事務局 info@mono-ouentai.org

発行 2009年2月